

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

科学研究費助成事業

研究成果報告書



平成 30 年 6 月 24 日現在

機関番号：37109

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03714

研究課題名（和文）東南アジアにおける貧困脱却のためのステージモデル（SPIモデル）に関する研究

研究課題名（英文）Research on the Stage Model for Overcoming Poverty in South East Asia

研究代表者

山田 啓一（Yamada, Keiichi）

中村学園大学・流通科学部・教授

研究者番号：80330885

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は貧困問題を経営学の考え方及び手法を使って解決することを論じた研究である。すなわち支援を受ける貧困者を消費者と考え、層別化し、それぞれの層におけるニーズとウォンツを明らかにし、かつ貧困者が自助努力により自立していくためのステージを、生存、参加、自立の3つに分け、支援機関の段階ごとの支援のあり方について論じた。さらに貧困者が自助努力で自立するためには、ゴールを設定し、それに向けた動機づけやキャリア開発が必要であり、そのためのロールモデルとキャリアプロフィールを提案した。貧困者へのきめ細かな支援には行政、NGO、NPO等支援機関の重層的なネットワークを通じた支援が必要であることにも論じた。

研究成果の概要（英文）：This research discusses about solution of poverty issues by thought and methodologies of business administration including marketing and psychology in this research. We considered the poor who receive support as 'consumers' and stratified in accordance with the level of poverty, and clarified people's needs and wants in each layer. Then we set the stages for independence as survival, participation, and independence, and discussed about support of supporting institutions such as government, NGO, NPO, and people organizations, etc. and proposed the necessity of support through the networks of those institutions. In addition, in order for the poor to achieve independence self-reliantly, goal setting, motivation, and career development for independence are considered to be necessary, and we proposed and discuss about effectiveness of using 'role models' and 'career profile' of the poor made by themselves.

研究分野：経営学

キーワード：貧困問題 貧困者の自立 ステージモデル 自力更生 内発的發展 動機づけ キャリア開発 支援のネットワーク

1．研究開始当初の背景

発展途上国における貧困問題の解決は国連の開発目標であるSDGsの一つであり、また日本企業が海外に活路を見出そうとする際にネックとなる問題でもある。とくに発展途上国においては、人口の多くが貧困層によって占められ、日本企業の製品サービスではコストが高く対象市場は限られてしまう。それよりも下層にある貧困層を対象とする巨大市場を狙うには短期的にはBOPビジネス、中長期的にはソーシャルビジネスによる貧困層の底上げが必要となる。

発展途上国の貧困問題の解決には政府の公共投資や外国企業等の直接投資等による職の創出が必要であるが、貧困者の自力更生・内発的發展による自立も求められる。そのためには、国、地方自治体、NGO、NPO、貧困者の民衆組織といった支援機関による重層的な支援が有効である。

しかし、現在までのところ、こうした「支援を受ける側」の論理による支援機関のネットワークによる体系的な支援は行われておらず、それぞれの機関で「支援する側」の論理に基づいた一方的な支援が行われてきており、貧困問題は一向に解決できないばかりか、グローバル化、IT化の進展により貧困はますます深刻な問題となりつつある。

2．研究の目的

本研究ではまず「支援される側」の視点でそのニーズやウォンツをどのように捉え、それにどのように応えていくか、ニーズやウォンツの決定要因を明らかにし、それを満たすにはどのような方法があるかについて明らかにする。

つぎに、貧困者の自力更生による内発的な発展については、自らの気づきと動機づけが重要な働きをするが、支援機関としては「支援される側」の論理に立って、どのような支援を行うべきかについて明らかにする。

3．研究の方法

まず、貧困の実態について、文献調査および現地（主としてフィリピン）での貧困者（訪問による生活実態の把握）、支援機関、研究者等の聞き取り調査を通じて、明らかにした。

つぎに支援機関の支援の現状と課題について、「受ける側」である貧困者、「支援する側」である支援機関の両者に対する聞き取り調査および関連文献調査を通じて、明らかにした。

そのうえで、貧困者を階層化し、また貧困者が自立に至るステージモデルを設定した。そして、階層とステージを関連づけ、階層ごとの支援ニーズについて明らかにした。こうしたアプローチは階層・ステージ毎のマクロ支援アプローチであり各階層・ステージの中においても、それぞれニーズやウォンツは個人個人で異なるはずである。そこで、筆者はさらに「受ける側」ひとり一人の視点に立つ

たミクロアプローチとしての動機づけとキャリア開発および支援のあり方について、文献調査および現地での聞き取り調査を行った。

4．研究成果

（1）貧困実態の調査

筆者はまず、2014年8月にマニラ首都圏カロオカン市で実施した貧困層の人びとに対する聞き取り調査およびアンケート調査に基づき、その生活実態に応じて貧困層を図表1のように分類した。

図表1 貧困層の階層



つぎに、貧困層が自立するための段階モデルとしてアルダファのERDモデル(Alderfer 1972)およびマズローの欲求階層説(Maslow 1943)に基づき図表2に示す生存・参加・自立モデルを提示した(下段に貧困層の階層を表示)。

図表2 貧困者の自立のためのステージモデル

生存 (Survival)	参加 (Participation)		自立 (Independence)	
	A	B	A	B
生存	日常生活 社会参加	自立準備	自立	自立の継続

(難民と極貧) 下層貧困層 中間貧困層 上層貧困層 (脱貧困層)

そしてステージ毎に支援を行うべき領域を提示した(図表3)。

図表3 貧困者の自立ステージと支援領域

	生存	参加 A	参加 B	自立 A	自立 B
	難民と極貧	下層貧困層	中間貧困層	上層貧困層	脱貧困層
難民支援	✓				
住宅支援	✓	✓	✓		
教育支援		✓	✓	✓	
経済支援	✓	✓	✓	✓	✓
健康支援	✓	✓	✓	✓	✓
事業支援			✓	✓	✓

しかし、実際には同一階層内の人であってもそのニーズやウォンツは異なり、さらにマーケティングの領域において近時指摘される

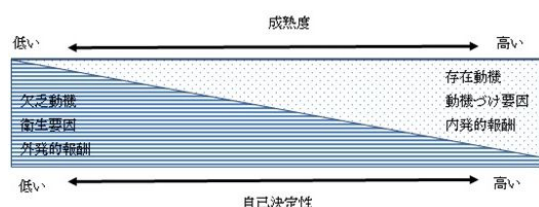
「モノ」から「コト」への消費者ニーズの転換という視点から（たとえ貧困者であってもマズローの欲求階層説に示されるような単純なニーズやウォンツとは限らない）、同時貧困者でも時と場合によってニーズやウォンツが異なることから、支援サービスはきめ細かなオーダーメイドによる支援、または支援サービスのメニューの中から貧困者が選択する、の2つの方法があることを示した。しかし、単独の支援機関ではこれらの方法に対応するには限界があることから、支援機関のネットワークの構築とそれを通じた支援（ソーシャルビジネスを含む）の必要性について論じた。

なお、必要な経済的（資金的）なニーズについては、マイクロファイナンスが有効であるが、現地調査から現状では、与信と回収、高金利、使途限定等の問題を指摘し、その改善の必要性を論じた。

しかし、貧困者が自力更生による内発的に自立を目指すには、動機づけとキャリア開発が必要であり、支援機関はその面でのサポートも行うことが有効である。

動機づけについては、成熟度（学歴や職歴などの社会経験、意識・態度などを含む）によって異なるので（図表4）、それに応じた動機づけの方法が大切である。

図表4 成熟度と動機づけの関係



そして、長期的な動機づけとしてキャリア開発が必要となるが、これらを本人の気づきとして内発的に行うことが大切である。そのために、支援機関のキャリアカウンセリングが有効であると考えられるが、そのためのツールとして、ロールモデル（モデルとなる特定の人、職業、生き方）とキャリアプロファイル（過去から現在にいたる人生を振り返り、それをベースとして未来を描き、そこにいたるロードマップを描く）の提案を行った。

参考文献

- Alderfer, Clayton P. (1972). *Existence, Relatedness, and Growth: Human Needs in Organizational Settings*, New York, NY, The Free Press
- Maslow, A. H. (1943). "A Theory of Human Motivation," *Psychological Review*, 50, 370-96.

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）

山田啓一、アジアビジネスに関する研究—フィリピンマニラ首都圏カロオカン市における BOP 層の生活実態に関する現地調査結果について、中村学園大学流通科学研究第 14 巻 2 号、査読有、2015、169 - 175

山田啓一、マニラ首都圏カロオカン市における中間貧困層の実態調査—テキストマイニングツールによる自由記入回答の分析の試み—、東亜企業経営研究第 4 号、査読有、2015、75 - 89

山田啓一、フィリピン現地調査報告 2015、中村学園大学流通科学研究所報第 10 号、査読有、85 - 92

山田啓一、貧困者の自立とフェアトレード、山東省世界経済学会 2016 年国際学術検討会論文集、査読無、2016、207 - 209

山田啓一、フィリピン NGO にみる貧困者の支援とコミュニティレジリエンス、日本情報経営学会誌、第 37 巻 3 号、査読有、2016、49 - 61

YAMADA, Keiichi, Supporting the Poor: NGOs/NPOs and their Networks of Services, 中村学園大学流通科学研究、第 16 巻 2 号、査読有、2016、17 - 25

山田啓一、ベトナムにおけるマイクロファイナンスとベトナム社会政策銀行、中村学園大学流通科学研究所報第 11 号、査読有、53 - 61

山田啓一、東南アジアにおける貧困脱却のためのステージモデル（SPI モデル）に関する研究—フィリピンでの現地調査を踏まえて—、中村学園大学流通科学研究、第 17 巻 1 号、査読有、2017、73 - 85

YAMADA, Keiichi, Microfinance in Vietnam and Vietnam Bank of Social Policy, International Conference for Business and Information (ICBI) at Nagoya, 査読無、2017、in CD-ROM

山田啓一、フィリピンにおける NGO と認証制度—PCNC 訪問報告、中村学園大学流通科学研究所報第 12 号、査読有、2018、77 - 86

山田啓一、貧困支援のミクロアプローチとしての貧困者の成熟度、動機づけ、キャリア開発とゴール設定のためのロールモデル、査読無、日本情報経営学会第 76 回全国大会予稿集、195 - 198

〔学会発表〕（計 13 件）

YAMADA, Keiichi, Real Needs and Wants of the Poor in Daily Life in Philippines and the Desirable Activities of NGO/NPO: Based on the Field Survey in Bagong Silang, International Conference on Business and Information (BAI) 2015, July 5, 2015

山田啓一、マニラ首都圏カロオカン市における中間貧困層の実態調査 - テキストマ

ニングツールによる自由記入回答の分析の試み、アジア共生学会、2015年7月31日

山田啓一、東南アジアにおける日本企業の企業行動に関する一考察 - 進出される側の論理、日本経営診断学会九州部会、2015年8月2日

YAMADA, Keiichi, Field Survey on Middle Class Poor in Caloocan City, Metro Manila: Analysis of Free Answer by using Text Mining Tool, International Conference on Information and Social Science 2015, August 5, 2015

山田啓一、フィリピンにおける貧困支援 - Gawad Kalinga の取り組み、東アジア企業経営学会九州部会、2015年10月31日

山田啓一、多国籍企業のグローバル戦略ダバオのバナナビジネスの事例をとおして、日本経営システム学会九州・沖縄支部研究会・経営情報学会九州支部研究会、2015年12月7日

山田啓一、貧困対策としてのマイクロファイナンスの現状と課題 フィリピンにおける現地調査を踏まえて、日本経営システム学会九州・沖縄支部研究会・経営情報学会九州支部研究会、2016年3月27日

YAMADA, Keiichi, Support for the Poor and Microfinance: Through the Case Study of Philippines, International Conference on Business and Information, 2017, Winer Session at Bangkok, Thailand, January 25, 2017.

YAMADA, Keiichi, Microfinance in Vietnam and Vietnam Bank of Social Policy, International Conference for Business and Information (ICBI 2017), at Nagoya, October 28, 2017

山田啓一、貧困者の動機づけとキャリア開発:自立のためのロールモデルとプロフィールづくりの提案、ビジネス科学学会全国大会、2017年6月24日

山田啓一、動機づけ理論再訪、日本情報経営学会九州支部、2017年5月13日

山田啓一、貧困者の自立と関係機関の支援 心理学的アプローチ、アジア共生学会、2017年7月30日

山田啓一、貧困支援のミクロアプローチとしての貧困者の成熟度、動機づけ、キャリア開発とゴール設定のためのロールモデル、日本情報経営学会第76回全国大会、2018年6月3日

〔図書〕(計 1 件)

山田啓一、東南アジアのマイクロファイナンスの現状と課題、甲斐論編著、流通ビジネスの新展開、五弦舎、2016年、163 - 180

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 啓一 (YAMADA, Keiichi)
中村学園大学・流通科学部・教授
研究者番号：80330885

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし

(4) 研究協力者
なし